

《ECHOLOCATOR》

PRECISION DELAY

erica synths × 112dB

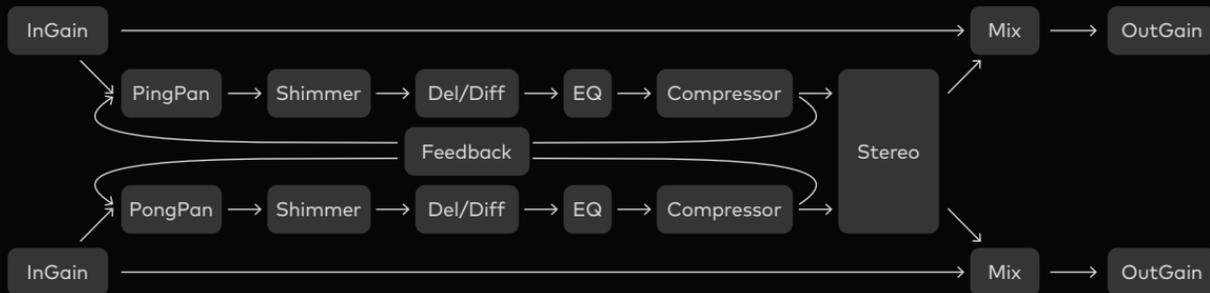
ECHOLOCATOR

Erica Synths Echolocator FX ユニットをお買い上げいただきありがとうございます。

112dB が開発したアルゴリズムを使用したユニークなステレオ ディレイである Echolocator は、細かいニュアンスを手動で非常に音楽的に制御できる、実践的な精密ツールです。暗闇の中で環境をナビゲートするコウモリのように、ライブパフォーマンスを自分の感覚で操作し、ディレイのレスポンスと特性をその場で形作ることができます。

詳細なサウンド デザインのための 12 個のパラメータ、すべてのパラメータの保存/呼び出し機能、すべてのパラメータに対する MIDI コントロール、および当社のコンパクトなデスクトップユニットのラインナップにマッチする洗練されたアルミニウム ケースを備えた Echolocator は、あらゆるライブショー、スタジオ、または音響実験でセットアップを飛躍させます。

▶ 信号の流れ



ディレイタイムを4ミリ秒から4秒まで設定します。SYNCモードでは、TIMEノブは時間乗数(反時計回り)と分周器(時計回り)になります。比率は1/8、3/16、1/4、1/3、1/2、1、2、3、4、16/3、8です。

Echolocatorの入力ゲインを調整します。ギターからラインレベルまでの範囲です。

ジッターの量(高速変調)。ORBITはMOD SPEED設定に連動します。

OLEDはプリセットと構成を表示します。

プリセットを選択して保存し、ユニットの設定を実行します。

Echolocatorの出力音量を制御します。

TIMEポテンショメータの設定によって決定されるオーディオバッファをプリーズします。BACKボタンを押したままFREEZEボタンを押すと、FXがバイパスされます。

フィルターの品質を設定します。0はフラット(フィルタリングなし)、100は狭帯域フィルタリングです。

フィルターの中心周波数を設定します。

LFOの速度を0から2Hzに設定します。

TIMEコントロールに送信されるLFOの量を設定します。

ディレイとリバープの間にルームリバープを追加します。オーディオ信号に自然な空間の響きを加えます。

入力信号とディレイ信号のミックスバランスを調整します。

シマーピッチを-12から+12半音に設定します。

シマーの量を設定します。

メニューを1つ前の階層に戻し、バイパスおよびシンクのSHIFTボタンとして機能します。

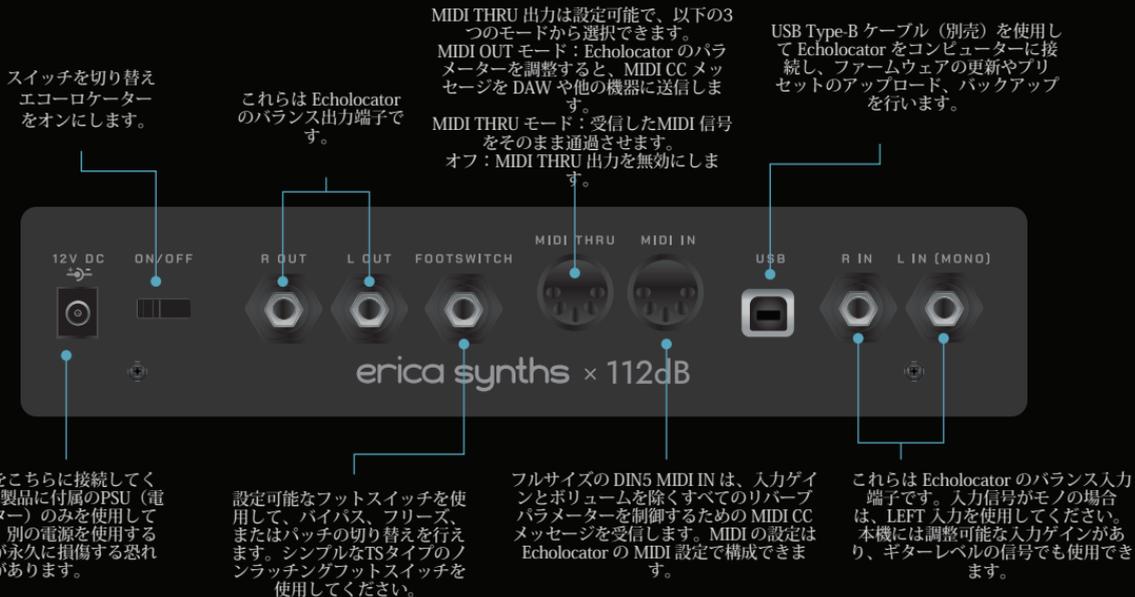
ボタンをタップすると、ディレイタイムがテンポに同期します。BACKボタンを押したままTAP TEMPOボタンを押すと、ディレイタイムがMIDIクロックに同期します。

入力信号のパンニングを調整し、ピンポンディレイ効果を作成します。

フィードバック量(ディレイの反射回数)を設定します。



▶ 接続



▶ メニューを掘り下げてみましょう

Echolocator のほとんどのコントロールは直接操作できますが、一部の機能はOLEDディスプレイとDATAエンコーダーを通じてアクセスできます。

01 INFINITEVOID

Echolocator をオンにすると、ディスプレイにプリセットのリストが表示されます。Echolocator には40種類のファクトリープリセットが搭載されており、最大60種類のユーザープリセットを保存できます。DATA エンコーダーを回してプリセットをナビゲートし、エンコーダーをクリックしてプリセットをアクティブにします。プリセットはコンピュータにバックアップでき、他の Echolocator ユーザーからプリセットをロードすることも可能です。詳細は下記の SYSTEM 設定をご参照ください。

PATCH

BACK ボタンを押してメインメニューにアクセスします。DATA エンコーダーを使用してメニューをナビゲートし、エンコーダーを押して確認します。メニューの最初のセクションは、PATCH (プリセット) 管理用です。

SAVE AS RENAME

プリセットを保存するには、SAVE AS オプションを選択し、エンコーダーを押して保存を確認します。プリセットの名前を付けるメニューが表示されます。



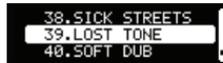
プリセットに名前を付けるには、DATA エンコーダーを押し続けて、ディスプレイの下部にシンボル選択画面が表示されるまで待ちます。DATA エンコーダーを使用してシンボルを選択し、エンコーダーを押してプリセットの名前を入力します。名前が決まったら、DATA エンコーダーを押し続けると、プリセット名設定画面に戻ります。SAVE を選択し、DATA エンコーダーを押して保存を確認します。また、ここでプリセット名をクリアしたり、ランダムなプリセット名を生成したりすることもできます (MAGIC)。DATA エンコーダーを回して、ディスプレイの下部にある関連メニューに移動できます。



PATCH 管理セクションのもう一つの機能は MAGIC です。DATA エンコーダーを押して MAGIC を確認すると、Echolocator は新しいプリセットを生成します - これはすべてのパラメーター設定のランダムな組み合わせです。もしその音が気に入ったら、プリセットを保存することができます。



PATCHメニュー では、プリセットを SORT (並べ替え) することもできます。この機能は、フットスイッチを使用してプリセットをナビゲートしたい場合に便利です。DATA エンコーダーを押して SORT 機能を有効にします。



プリセットを並べ替えるには、DATA エンコーダーを回して移動したいプリセットを選択し、エンコーダーを押します。選択したプリセットが「固定」され、エンコーダーを回して別のスロットに移動できます。移動先が決まったら、DATA エンコーダーを押して新しいスロットを確認します。PATCH メニューを終了するには、BACK ボタンを押します。



EFFECT セクションでは、Echolocator の DSP (デジタルシグナルプロセッシング) の動作を設定できます。



デフォルトでは、ディレイエフェクトはテープディレイのエミュレーションに基づいていますが、代わりに BBD ディレイのエミュレーションモードを選択することもできます。その場合、エンコーダーを回して DIRTY オプションを選び、エンコーダーを押して ON を選択します。もう一度エンコーダーを押して確認すると、Echolocator は BBD モードに設定されます。この設定はプリセットとともに保存されることに注意してください。



Echolocator には、フィルターのルーティングに2つのオプションがあります。フィードバックループ内か、オーディオ信号と直列に接続するかです。フィルターのルーティングを変更すると、フィルターが音に与える影響が大きく変わります。フィルターのルーティングを変更するには、エンコーダーを押して回し、選択を行います。選択後、エンコーダーを押して確認します。



Echolocator には2種類の SHIMMER (タイプ A とタイプ B) があります。タイプ間の違いは、ピッチシフトされた信号がノンピッチシフト信号とどのように混合されるかにあります。タイプ A では、ピッチシフトされた信号が徐々に混ざり、設定 100 では 50/50 のドライ/ウェットミックスになります。一方、タイプ B では、設定 50 でドライ信号がフェードアウトし、設定 100 ではウェット信号のみになります。タイプを切り替えるには、エンコーダーを押して回し、選択を行います。選択後、エンコーダーを押して確認します。



過度なフィードバック音を抑えるため、ディレイアルゴリズムには FX チェーン内にコンプレッサーが搭載されています。独自のディレイパッチを作成する際 COMPRESSION の値を 0~100 の範囲で調整できます。設定するには、DATA エンコーダーを押して回転させ、希望のコンプレッション量を選択します。再度エンコーダーを押すと設定が確定されます。



Echolocator では、DRY/WET ノブの位置を保存するためにアナログ VCA を使用して、ドライ信号とウェット信号 (リバーブ処理された信号) の間をフェードします。アナログ VCA を使用せず、デジタルの DRY/WET ミックスを使用することも可能です。その場合、DATA エンコーダーを押して ANALOG MIX を選択し、回して OFF を選びます。もう一度エンコーダーを押して、この選択を確認します。



Echolocator のもう一つの特徴は、プリセット MORPHING 機能です。瞬時にプリセットを切り替える代わりに、次のプリセットへのフェードイン時間を設定できます。DATA エンコーダーを押して MORPH オプションを選択し、エンコーダーを回してプリセットのフェードイン時間 (秒単位) を設定します。利用可能なオプションは、0.1"、0.2"、0.5"、1"、1.5"、2"、3"、4"、5"、7.5"、10" です。EFFECT メニューを終了するには、BACK ボタンを押します。



MIDI メニューでは、Echolocator の MIDI 実装を設定することができます。



このメニューの最初のサブメニューでは、MIDIチャンネルを設定できます。エンコーダーを押してMIDIチャンネル選択を有効にし、回してチャンネルを選択します。選択したチャンネルは、MIDI IN と MIDI OUT の両方に適用されます。MIDI キーボード（または MIDI ノートを送信するように設定された DAW）が接続され、チャンネルが選択されると、Echolocator の SIZE パラメーターを12音階で演奏できます。これは、FREEZE モードが有効で、ディケイテールが無限に持続する時に最適に動作します。



次に、MIDI 出力の設定があります。DATA エンコーダーを押して MIDI 出力設定にアクセスし、回してオプションを選択します。MIDI 出力は、MIDI OUT モードに設定することができ、これにより Echolocator のパラメーターを調整する際に、MIDI CC メッセージが DAW や他の機器に送信されます。また、MIDI THRU モードにするか、出力をオフにすることもできます。



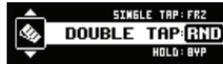
MIDIメニューをスクロールすると、Echolocator のすべてのパラメーターにカスタム MIDI CC メッセージを割り当てることができます。このマニュアルの 10 ページにあるデフォルトの MIDI CC 実装を参照してください。例えば、デフォルトでは SIZE パラメーターの CC メッセージは 70 ですが、DATA エンコーダーを押して回すことで、別の CC に変更することができます。MIDIメニューを終了するには、BACK ボタンを押します。



FOOTSWITCH セクションでは、Echolocator のフットスイッチの動作を設定することができます。



SINGLE TAP に対して、以下のオプションを選択できます：
OFF - フットスイッチはシングルタップに反応しません。
BYPASS - フットスイッチでバイパスを切り替えます。
FREEZE - フットスイッチでフリーズ機能を切り替えます。
FWD - フットスイッチをタップするごとにリスト内の次のプリセットに進みます。
BWD - フットスイッチをタップするごとにリスト内の前のプリセットに戻ります。
RND - フットスイッチをタップするごとにリスト内のランダムなプリセットが選ばれます。
MGC (MAGIC) - フットスイッチをタップするごとにランダムなパラメーター設定の組み合わせが生成されます。
TAP - フットスイッチを使用してディレイタイムを入力します。
TAP 設定では、DOUBLE TAP と HOLD オプションは自動的に無効になります。DATA エンコーダーを回してオプションを選択し、エンコーダーを押して選択を確認します。



DOUBLE TAP に対しては、SINGLE TAP と同じオプションが選択できます。



HOLD (2) のフットスイッチに対して、以下のオプションを選択できます：
OFF - フットスイッチはホールドに反応しません。
BYPASS - フットスイッチをホールドするとバイパスが切り替わります。
FREEZE - フットスイッチをホールドするとフリーズ機能が切り替わります。
DATA エンコーダーを回してオプションを選択し、エンコーダーを押して選択を確認します。FOOTSWITCH メニューを終了するには、BACK ボタンを押します。



SYSTEM メニューでは、Echolocator の一般的な設定や、パッチのバックアップオプションが確認できます。



最初の設定は、OLED ディスプレイの明るさです。DATA エンコーダーを押して明るさ設定を選択し、回して希望の明るさレベルに調整して、エンコーダーを押して確認します。次の設定では、LED の明るさを調整できます。DATA エンコーダーを押して明るさ設定を選択し、回して希望の明るさレベルに調整して、エンコーダーを押して確認します。



次に、OLED ディスプレイのスクリーンセーバー設定があります。DATA エンコーダーを押して OLED SAVER 設定を選択し、回して希望のスクリーンセーバー時間を設定して、エンコーダーを押して確認します。



POT CATCH オプションは、プリセットを変更した際にポテンシオメータの位置記憶をオンまたはオフにします。各プリセットには特定のポテンシオメータの位置が設定されており、プリセットを変更すると、ほとんどの場合これらの位置は異なります。POT CATCH がオンに設定されている場合、関連するポテンシオメータを回して以前保存された位置を通過させる必要があります。これにより、パラメーターを変更する際に音の遷移がスムーズに行われます。POT CATCH がオフに設定されている場合、関連するポテンシオメータを回すと即座に位置が変更され、その結果音に影響を与えます。もう一つの設定である POP は、ポテンシオメータキャッチをオンにし、パラメーターを調整する際に、変更を加える前に一致させるべきロックされた位置を表示する便利なポップアップを表示します。



LOAD LAST がオンに設定されている場合、Echolocator の電源を切って再度入れた際に、電源を切る前にアクティブだった最後のプリセットが読み込まれます。これがオフに設定されている場合、Echolocator はリストの最初のプリセットを開始します。



USB MANAGE モードでは、個別のバッチプリセットを追加・削除できます。Echolocator を USB ケーブルでコンピュータに接続し、DATA エンコーダーを押して開始します。Echolocator はコンピュータに外部ドライブとして表示されます。これを開くと、プリセットの **.nvp ファイルが保存されたディレクトリが見つかります。新しいプリセットを追加したり、個別のバッチを削除またはバックアップしたりできます。作業が終わったら、Echolocator の BACK ボタン**を押してコンピュータから取り外します。



USB BACKUP モードでは、Echolocator の現在のすべてのバッチ（バッチとその順番のみ、設定は含まれません）をバックアップできます。Echolocator を USB ケーブルでコンピュータに接続し、DATA エンコーダーを押して開始します。Echolocator はコンピュータに外部ドライブとして表示されます。これを開くと、backup.nvb という単一のバックアップファイルが保存されたディレクトリが見つかります。このファイルをコンピュータにコピー保存するか、別のバックアップファイルで置き換えて別のバックアップを読み込むことができます。注意！別のバックアップを読み込むと、既存のバッチとその順番が完全に上書きされます。



Echolocator のファクトリーリセットを行うことができます。DATA エンコーダーを押して、OLED 画面の指示に従って操作してください。



SYSTEM メニューの最後のセクションでは、ファームウェアのバージョンが表示されます。ファームウェアの更新情報については、Erica Synths のメールリストに登録するか、SNS、または公式ウェブサイト (www.ericasynts.lv) をご確認ください。

▶ ファームウェアのアップグレード



Echolocator のファームウェアアップグレード手順

Echolocator の電源をオフにし、USB ケーブルを使用してコンピュータに接続します。次に、DATA ENCODER と TAP TEMPO ボタンの両方を押しながら、Echolocator の電源をオンにします。これで、ファームウェアアップグレードの画面が表示されます。Echolocator がコンピュータ上で外部ドライブとして表示されるので、それを開きません。ディレクトリ内には INFO.txt ファイルがあります。次に、ダウンロードした **.uf2 ファームウェアファイルをディレクトリにドラッグ&ドロップ** します。ファイルがすぐにアップロードされ、ディスプレイに「FINISHED!」と表示されます。Echolocator は自動的に再起動し、通常の操作モードに戻ります。再起動後、コンピュータ上ではもはや外部ドライブとして表示されません（その後、USBケーブルを取り外すことができます）。ファームウェアのアップグレードが正常に完了しました！

▶ 初期設定での MIDI CC インプリメンテーション

| PARAMETER | MIDI CC | RANGE |
|------------------|---------|--------|
| Time | 70 | 0-127 |
| Filter Q | 71 | 0-127 |
| Filter cutoff | 72 | 0-127 |
| Modulation speed | 73 | 0-127 |
| Modulation depth | 74 | 0-127 |
| Reverb mix | 75 | 0-127 |
| Orbit | 76 | 0-127 |
| Dry/wet mix | 77 | 0-127 |
| Feedback | 78 | 0-127 |
| Pitch shift | 79 | 0-127 |
| Shimmer | 80 | 0-127 |
| Ping pong | 81 | 0-127 |
| Freeze | 82 | ON/OFF |

▶ 安全に関する諸注意

以下の使用手順に従ってください。これにより、モジュールが正しく動作し、Erica Synthsの保証を受けることができます。



Echolocator モジュールは、システムに付属の電源ユニット (PSU) でのみ使用してください。他のPSUユニットを使用すると、機器に永続的な損傷を与える可能性があります。



水はほとんどの電気機器にとって致命的です。Echolocator モジュールは、防水加工されていない限り、湿気や水分のある環境では使用しないでください。モジュールに液体やその他の導電性物質が入らないようにしてください。万が一入ってしまった場合は、直ちに電源を切り、乾燥させ、資格を持つ技術者による点検と清掃を受けてください。



本機器を+50° C を超える温度や20° C 未満の温度にさらさないでください。極端な低温で輸送された場合は、電源を入れる前に1時間ほど室温で置いておいてください。



機器を輸送する際は注意してください。落としたり倒したりしないようにしてください。外観に損傷がある機器は保証対象外となります。



Echolocator モジュールは、元のパッケージでのみ配送してください。返品、交換、または保証修理のために送られる機器は、必ず元のパッケージに入れてください。その他の配送は拒否され、返送されます。元のパッケージと技術的な文書を必ず保管してください。

▶ 製品の破棄について

本機器は EU のガイドラインに準拠しており、鉛、水銀、カドミウム、クロムを使用せずにRoHS規制に適合しています。しかし、この機器は特別廃棄物に該当するため、家庭ごみとして廃棄することは推奨されません。

User manual by Girts Ozolins@Erica Synths.
Design by Ineta Briede@Black8 & Maija Vitola@Black8.

本機器のコピー、配布、または商業利用は一切禁止されており、Erica Synthsの書面による許可が必要です。

仕様は予告なく変更される場合があります。
ご質問がある場合は、www.ericasynths.lvのサポートセクションからお気軽にお問い合わせください。

You will find the Erica Synths terms of warranty at
www.ericasynthslv

Items for return, exchange and/or warranty repair should be sent us
according to the guidelines on SUPPORT section on www.ericasynthslv

Erica Synths
Tiklu Str. 3
Riga
Latvia
LV-1048

Elektron Distribution Group 株式会社
〒237-0057
神奈川県鎌倉市大船笠原ビルIV5階1号室
www.elektrondistributiongroup.com